

仕舞

花筐狂 立花香寿子

地謡 池内光之助
梅若堯之
笠田祐樹
梅若雄一郎

呉服

時の帝に仕える臣下が、西の宮参詣の途次「呉服の里」の松陰で、一人は機を織り他の一人が糸を引いている二人の女を見て不思議に思い、素性をたずねました。

すると、自分たちは応神天皇の御代に御衣を織った呉織(くれはとり)・漢織(あやはとり)の姉妹で昔、呉の国から勅使に従って渡来した織女であるとの名を、当時の様子を語りました。

そして、明け方の頃、呉織(くれはとり)が天女の姿となって現れ、君が代を祝って舞を舞い、綾綿を織って献上します。

能 呉服

シ テ 梅若猶義
ツ レ 林本 大
ワ キ 江崎欽次朗
ワキツル 松本義昭
ワキツル 大坪賢明
間 善竹隆司
笛 槌矢亮
小 鼓 高橋奈王子
大 鼓 上野義雄
太 鼓 上田慎也

後見 梅若基徳
見 井戸良祐
地謡 大西礼久
小西弘通
井戸和男
立花香寿子
今村哲朗
永田克壬

《池田と呉服》

池田にも同様に「二人の女神が猪名川をさかのぼって池田に辿り着き、織物の技術を伝えた」という、「織り姫伝説」があります。二人の織り姫は、呉織(クレハトリ)・漢織(アヤハトリ)として、それぞれ呉服神社・伊居太(いけだ)神社にまつられ、今でも池田市には呉服町(くれはちょう)という地名が残っています。

文山立 (ふみやまだち)

二人の山賊が、ねらった旅人を逃してしまったことから仲間割れし、果し合いになるが、見物人のいないところで死ぬのは犬死にも同然、書置きをして死のうと、争いを中止して矢立を取り出して遺書を書く。一人が文言をいい、一人がそれを書き記していくうち、内容が妻子の将来に及ぶと、二人とも感きわまって泣き出してしまう。そして互いのがまんすればすむことだと仲直りし、めでたく連れ立って家路をたどる。

火入れ式

狂言 文山立

山立 善竹隆平
山立 上吉川徹

後見 上西良介

仕舞

松風 池内光之助
遊行柳ヶ小西弘通

地謡 梅若堯之
林本 大
上野雄介
梅若雄一郎

石橋 (しゃつきょう) 大獅子

大江定基は出家して寂昭法師と号し、中国、印度の仏教関係の遺跡を巡礼し、清凉山へやって来ます。そして石橋を渡ろうとすると、一人の童子が現れ、この石橋というのは、千丈あまりの谷に、中はわずかに一尺にもたりないが、長さは三丈にも及ぶ石の橋で、人間が渡したのではなく、自然と出現したものであり、容易に人間の渡れるものではないと止めます。そして、向かいは文殊菩薩の浄土であるから、ここで待てばやがて奇瑞が現れるであろうと告げて、立ち去ります。

〈中入〉待つ間程なく、獅子が石橋の上に出現し、咲き乱れた牡丹の花の間を勇壮に舞い戯れ、千秋万歳を祝います。

半能 石橋 大獅子

白獅子 井戸良祐
赤獅子 今村哲朗
ワキ 江崎正左衛門
笛 斎藤敦
小鼓 上田敦史
大鼓 森山泰幸
太鼓 上田慎也

後見 池内光之助
見 林本 大
地謡 井戸和男
梅若基徳
梅若堯之
梅永田克壬
上野雄介
笠田祐樹

【能楽『石橋』のあらすじは権堂芳一著「能楽手帳」より出典】

司会 大木幸子



5/13(月) 事前講座「能への誘い～薪能によせて」
13:00～15:00 <講師:井戸良祐>
受講料 アゼリアカルチャーカレッジ会員1,620円 / 一般1,836円(税込)
当日使用する能面、装束、小道具などを出演者が詳しく解説。
装束付けの体験もあり、説明を聞いてから鑑賞すると物語をよりいっそう深く理解いただけます。
会場・申込:アゼリアカルチャーカレッジ Tel:072-761-0660
〒563-0031 池田市天神1-9-3 池田市立カルチャープラザ内